

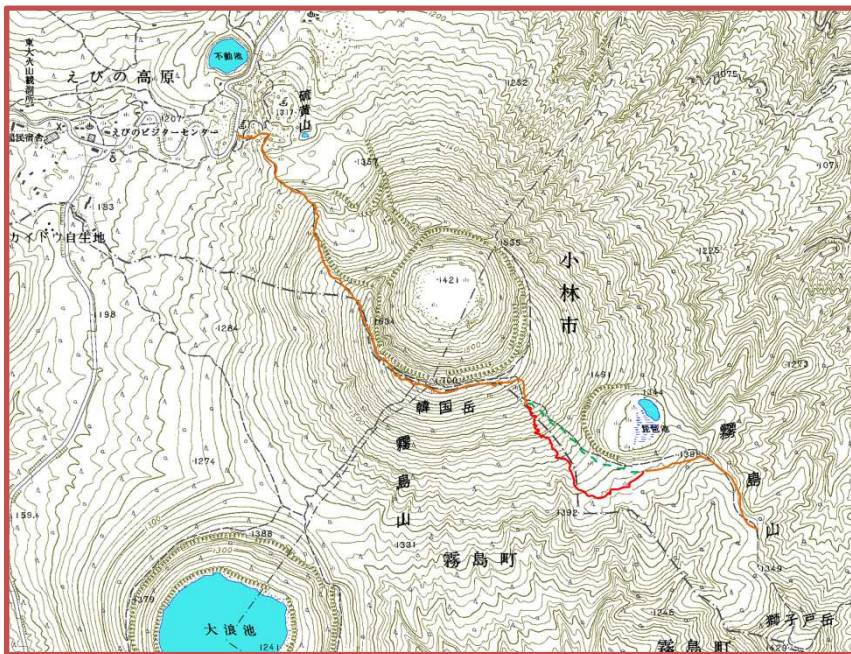
霧島山縦走線歩道(韓国岳～琵琶池)整備について

韓国岳から琵琶池に至る登山道は、霧島連山の1つである新燃岳の火山活動が高まったことをうけ、平成23年1月より平成25年10月までは噴火警戒レベルが3となり火口から半径2～4kmの立ち入りが規制されました。

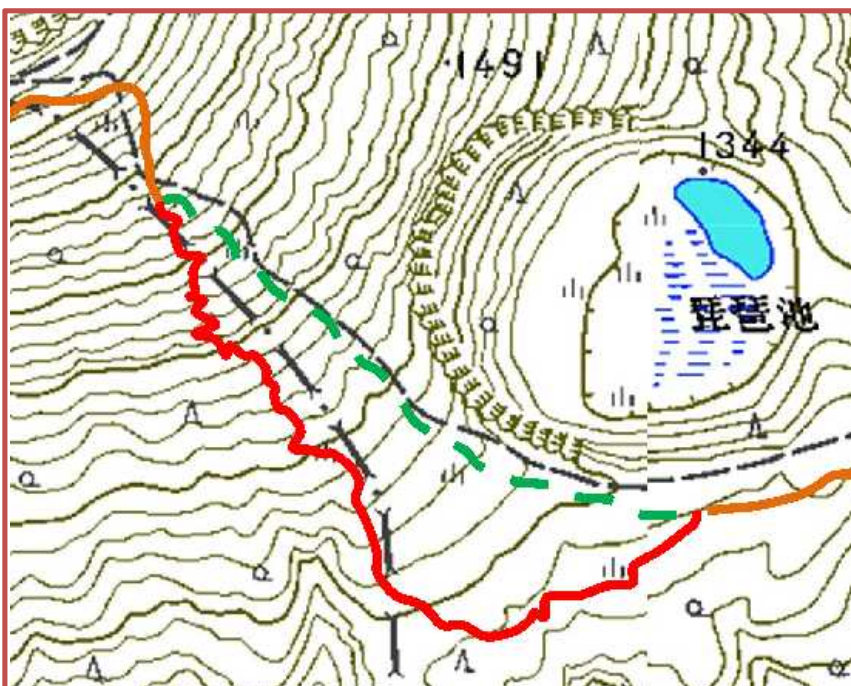
この間、韓国岳から琵琶池までの登山道は改修及び保全対策は行われておらず、さらに自然環境条件下で土壌浸食等の荒廃が進みました。

噴火警戒レベルが2に引き下げられた平成25年11月に現地調査を実施した結果、沢筋と平行している既存登山道については、沢筋のV字浸食の拡張と登山道自体の浸食によって多くの施設(木製階段等)の倒壊が確認されました。このような状況を踏まえ、当該区間については、登山道の維持及び登山者の安全確保は難しいとの判断に至り、当該区間を廃止し、新たな登山道を整備することとしました。

新たな登山道は廃止区間の南側に位置し、既存登山道のような沢筋を直登するようなルートではなく、出来る限り勾配を緩和するとともに、横断排水を設置するなどして、土壌浸食を受けにくいようにしています。また、廃止区間は植生の回復を促すために土留め等を設置します。



【霧島山縦走線】
(韓国岳～獅子戸岳ルート)



凡例

- 既存ルート(再整備)
- 既存ルート(廃止区間)
- 新規ルート

1) 現状(既存ルート(再整備))

・ガレ場における木製階段・土砂流出防止柵の崩壊状況



2) 現状(既存ルート(廃止(植生回復)))

土質が浸食を受けやすい粘性土であるとともに、登山道が沢筋と平行している区間

・水流によるV字浸食で木製階段がハードル状になっている。



・沢筋のV字浸食の拡大と登山道表土の浸食により、沢筋と登山道の区別できない。



・沢筋のV字浸食の拡大と登山道の表土浸食により、木製階段等の施設が倒壊している。



3) 現状(新規ルート)

- ・上部はスズタケの中を通過します。所々、新燃岳が眺望できます。



- ・中間部はスズタケと樹木が混生するなかを通過します。



- ・下部はスズタケがなくなり樹林帯を通過します。所々、小さな沢を横切ります。

